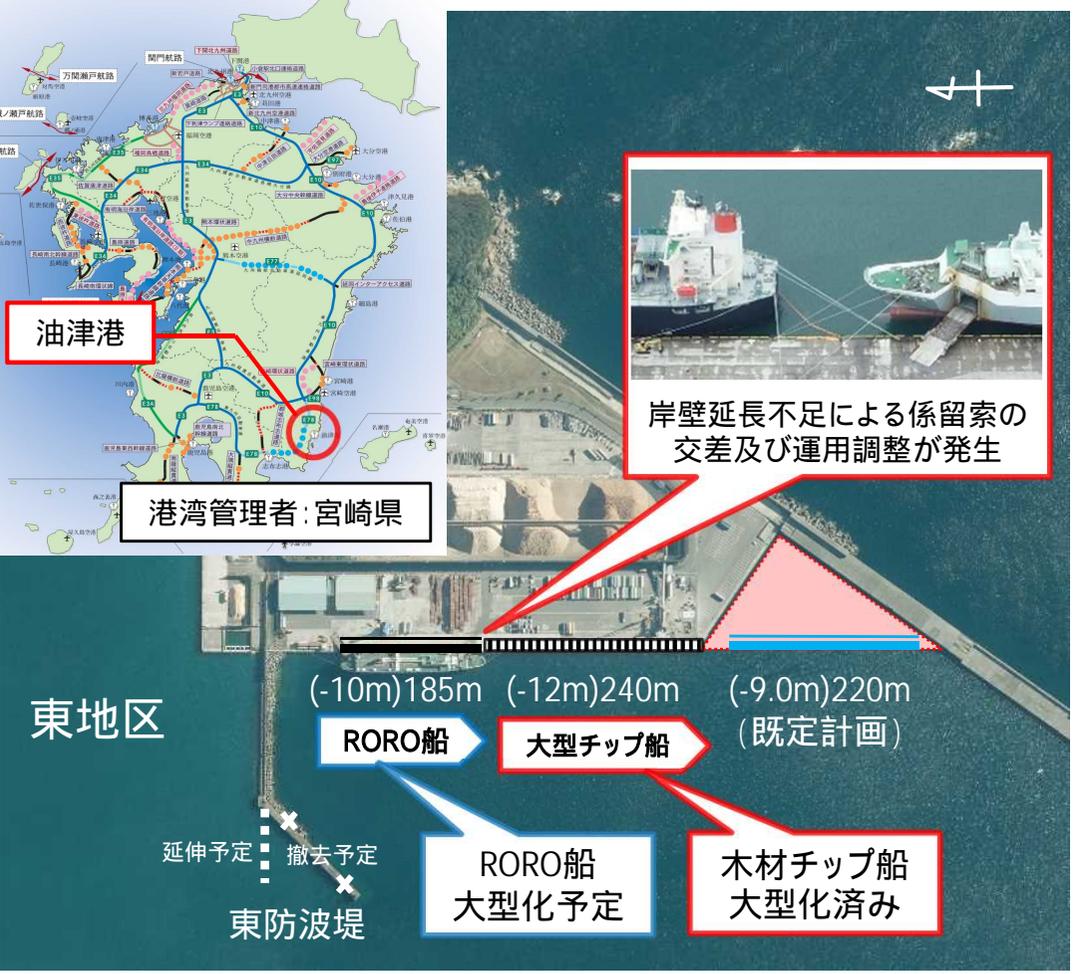


油津港(一部変更)

油津港東地区において、木材チップ船とRORO船が接岸する際に、岸壁延長不足による係留索の交差及び運用調整が発生しており、改善が必要な状況。
予定されるRORO船の大型化と現状の課題に対応するため、岸壁(-9m)で想定していたRORO貨物の取扱いを岸壁(-10m)に集約し、既設岸壁を延伸して埠頭再編を図る。
また、RORO船の寄港頻度の増加が見込まれ、地域経済への重要度が増す岸壁(-10m)を大規模地震対策施設(幹線貨物輸送)に位置づけ、発災後の経済活動の維持を図る。

【利用状況】



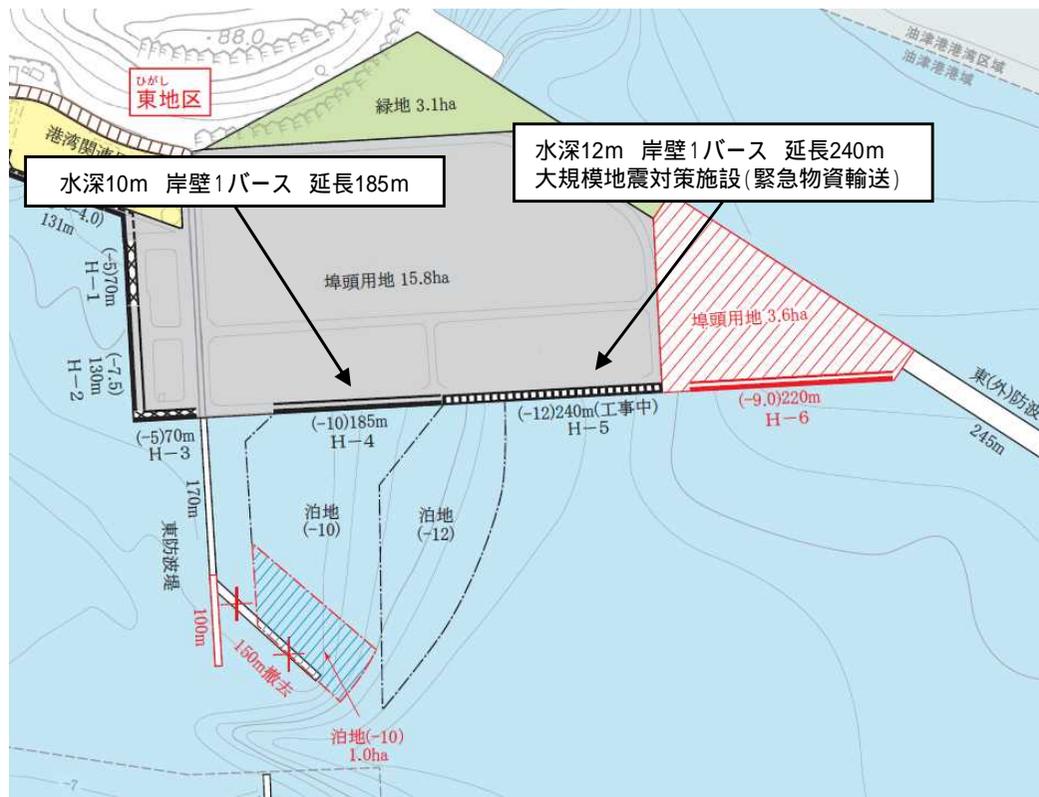
【今回計画】



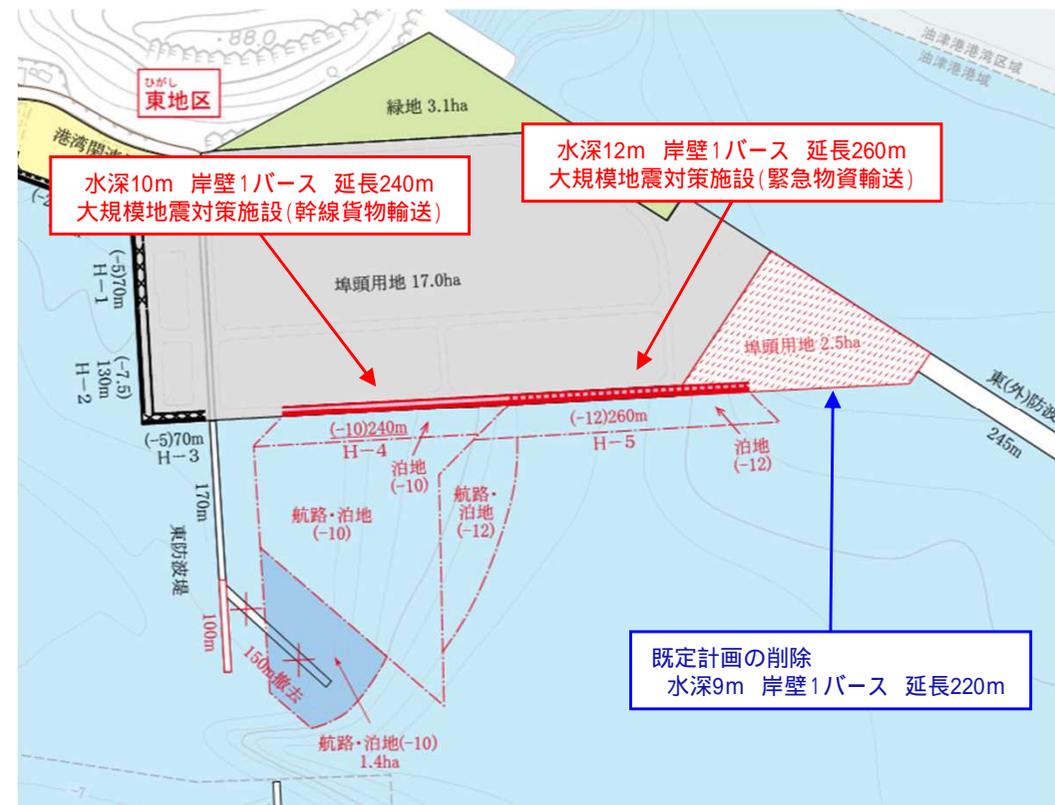
計画変更内容

対象船舶の大型化に対応するため、岸壁(-10m)と岸壁(-12m)の延伸、岸壁(-9m)の削除を計画し、東地区の埠頭再編を図る。
 幹線貨物輸送拠点として機能させるため、岸壁(-10m)を大規模地震対策施設計画(幹線貨物輸送)に位置付ける。

【既定計画】



【今回計画】



| 変更概要 | 基本方針 | |
|--|--|---|
| | 港湾の開発、利用及び保全の方向に関する事項 | 港湾の配置、機能及び能力に関する基本的な事項 |
| 船舶の大型化に対応し、物流機能の安定化を図るとともに、災害時の幹線貨物輸送体制を強化する | 1 特に戦略的に取り組む事項(に係る基本的な事項) (1) 我が国の産業と国民生活を支える海上輸送網の構築と物流空間の形成 将来にわたり国内物流を安定的に支える国内複合一貫輸送網の構築 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 国内複合一貫輸送網の機能強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 船舶の大型化に対応した岸壁及び十分な広さの荷さばき地の整備 |
| | (3) 国民の安心・安全を支える港湾機能・海上輸送機能の確保 災害から国民の生命・財産を守り、社会経済活動を維持する港湾・輸送体系の構築 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 災害時における緊急物資や、国際海上コンテナをはじめとする幹線貨物の一連の輸送ルート of 構築及び航路等の啓開体制の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 幹線貨物輸送の拠点となる岸壁、荷役機械、道路等の耐震強化 |